

2014 年度(平成 26 年度)事業報告書

〔 自 2014 年(平成 26 年)4 月 1 日
至 2015 年(平成 27 年)3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、1984 年(昭和 59 年)4 月 12 日に設立された。

1985 年(昭和 60 年)に第 1 回京都賞授賞式、第 1 回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011 年(平成 23 年)4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2014 年度事業計画（概要）

I. 顕彰事業

1. 第 30 回(2014)京都賞受賞者を決定し、授賞式にて次の 3 賞を授与する。
先端技術部門 : バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー
基礎科学部門 : 数理科学（純粋数学を含む）
思想・芸術部門 : 美術（絵画・彫刻・工芸・建築・デザイン）
2. 第 31 回(2015)京都賞に向け、候補者推薦の受付及び審査選考を開始する。
3. 第 32 回(2016)京都賞に向け、審査機関委員を決定する。

II. 助成事業

1. 2014 年度(平成 26 年度)研究助成として、贈呈式にて研究助成金を贈呈する。
2. 2015 年度(平成 27 年度)研究助成に向け、申請書の受付及び選考を行い、助成対象者を決定する。
3. 2016 年度(平成 28 年度)研究助成に向け、選考委員を決定する。
4. 2014 年度(平成 26 年度)特別助成として、研究機関の事業援助及び国際相互理解増進のため、助成対象案件について審査及び助成を行う。
5. 2015 年度(平成 27 年度)特別助成に向け、審査委員を決定する。

III. 社会啓発事業

1. 「イナモリフェロー」に対し、研修等を実施する。
2. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動を支援する。
3. 国際相互理解の増進、及び学術の振興に寄与する活動を行う。

I. 顕彰事業

1. 第 30 回(2014)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、2013 年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

2014 年 6 月 20 日開催の定時理事会において、第 30 回(2014)京都賞受賞者を下記 3 氏に決定し、同日記者会見を行なって発表した。

①先端技術部門受賞者

ロバート・サミュエル・ランガー博士 (Robert Samuel Langer)

職 業：生体医工学者

マサチューセッツ工科大学 インスティテュート・プロフェッサー

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「組織工学及び薬物送達システム技術の創出」

生体吸収性ポリマーを応用して、細胞の「足場」を構築することにより、様々な臓器の形成に成功して、再生医療の実現に不可欠な組織工学を創出した。また、タンパク質や核酸など高分子の徐放化の技術を開発し、薬物送達システム技術の実用化を積極的に推進し、医工学融合領域を牽引している。

②基礎科学部門受賞者

エドワード・ウィッテン博士 (Edward Witten)

職 業：理論物理学者

プリンストン高等研究所 教授

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「超弦理論の推進による数理科学の新しい発展への多大な貢献」

今日まで 30 年以上に亘って超弦理論の飛躍的進化の過程において指導的役割を果たすことで理論物理に貢献しただけでなく、物理的直感と数学的技法を発揮して新しい数学を開発することによって多くの最先端の数学者の研究を触発した。その功績は他に類がなく傑出したものである。

③思想・芸術部門受賞者

志村 ふくみ氏 (Fukumi Shimura)

職 業：染織家

国 籍：日本

贈賞理由：

「民衆の知恵の結晶である紬の着物の創作を通して、自然との共生という人間にとって根源的な価値観を思索し続ける芸術家」

多種多様な草木から染め出した色糸を語彙として、紬織に即興性を取り入れ無限に色を奏で響かせる独創的な美の世界を拓き、絶え間ない自然との交感と思索によって「人間存在を自然の中に織り成す柔らかな思想」に到達した。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第 30 回(2014)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。

(役職は公表時現在)

[京都賞委員会]

中西 重忠	(委員長)	公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長
甘利 俊一		理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
巖佐 庸		九州大学 大学院理学研究院 教授
梶山 千里		福岡女子大学 理事長・学長
榊 裕之		豊田工業大学 学長
佐藤 文隆		京都大学 名誉教授
高階 秀爾		大原美術館 館長
長木 誠司		東京大学 大学院総合文化研究科 教授
野依 良治		理化学研究所 理事長
広中 平祐		京都大学 名誉教授
本庶 佑		静岡県公立大学法人 理事長
鷺田 清一		大谷大学 文学部 教授

[審査委員会]

①先端技術部門

本庶 佑	(委員長)	静岡県公立大学法人 理事長
岡田 清孝		自然科学研究機構 理事
岡野 栄之		慶應義塾大学 医学部 教授
川人 光男		(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長
岸本 忠三		大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授
成宮 周		京都大学 大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター センター長
林崎 良英		理化学研究所 社会知創成事業 予防医療・診断技術開発プログラム プログラムディレクター
平岡 真寛		京都大学 大学院医学研究科 教授

②基礎科学部門

広中 平祐	(委員長)	京都大学 名誉教授
-------	-------	-----------

合原 一幸	東京大学 生産技術研究所 教授
伊理 正夫	東京大学 名誉教授
江口 徹	立教大学 大学院理学研究科 特任教授
熊谷 隆	京都大学 数理解析研究所 教授
黒川 信重	東京工業大学 大学院理工学研究科 教授
小谷 元子	東北大学 大学院理学研究科 教授
森 重文	京都大学 数理解析研究所 教授

③思想・芸術部門

高階 秀爾（委員長）	大原美術館 館長
逢坂 恵理子	横浜美術館 館長
柏木 博	武蔵野美術大学 造形学部 教授
藏屋 美香	東京国立近代美術館 美術課長
酒井 忠康	世田谷美術館 館長
水沢 勉	神奈川県立近代美術館 館長
本江 邦夫	多摩美術大学 美術学部 教授

[専門委員会]

①先端技術部門

岡野 栄之（委員長）	慶應義塾大学 医学部 教授
岩田 想	京都大学 大学院医学研究科 教授
上田 泰己	東京大学 大学院医学系研究科 教授
篠崎 一雄	理化学研究所 環境資源科学研究センター センター長
田中 啓二	公益財団法人東京都医学総合研究所 所長
中尾 一和	京都大学 大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター 特任教授
長野 哲雄	東京大学 名誉教授
古川 貴久	大阪大学 蛋白質研究所 教授

②基礎科学部門

小谷 元子（委員長）	東北大学 大学院理学研究科 教授
大栗 博司	カリフォルニア工科大学 ウォルター・バーク理論物理学研究所 所長
河東 泰之	東京大学 大学院数理科学研究科 教授
楠岡 成雄	東京大学 大学院数理科学研究科 教授
斎藤 毅	東京大学 大学院数理科学研究科 教授
土谷 隆	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中島 啓	京都大学 数理解析研究所 教授
三輪 哲二	京都大学 国際高等教育院 特定教授

③思想・芸術部門

柏木 博（委員長） 武蔵野美術大学 造形学部 教授
五十嵐 太郎 東北大学 大学院工学研究科 教授
島 敦彦 国立国際美術館 副館長
建畠 哲 京都市立芸術大学 学長
西野 嘉章 東京大学 総合研究博物館 館長
不動 美里 姫路市立美術館 副館長
南畠 宏 女子美術大学 芸術学部 教授
安永 幸一 福岡アジア美術館 顧問

2. 第 30 回(2014)京都賞授賞式及び関連行事の開催

（１）受賞者歓迎レセプション

日 時：2014 年 11 月 9 日（日）18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
内 容：受賞者夫妻の入洛を歓迎し、レセプションを開催した。

（２）第 30 回(2014)京都賞授賞式

日 時：2014 年 11 月 10 日（月）15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
受 賞 者：ロバート・サミュエル・ランガー博士（先端技術部門）
エドワード・ウィッテン博士（基礎科学部門）
志村 ふくみ氏（思想・芸術部門）
出席要人：キャロライン・ケネディ アメリカ合衆国大使
関 芳弘 経済産業大臣政務官
大使・総領事関係者 38 名
国会議員関係者 7 名
学術・文化機関の長 47 名
出席者数：1,650 名
祝 辞：バラク・H・オバマ アメリカ合衆国大統領
安倍 晋三 内閣総理大臣
内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内及び海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、井村裕夫会長から受賞者へ京都賞メダルとディプロマ、賞金 5,000 万円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行なった。また、内閣総理大臣と受賞国代表者から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：2014 年 11 月 10 日（月）18:15

場 所：グランドプリンスホテル京都

貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）

出席者数：762 名

内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：2014 年 11 月 11 日（火）13:00

場 所：国立京都国際会館 大会議場

出席者数：1,600 名

演 題：「ある若き化学工学者の夢と奮闘」 ロバート・サミュエル・ランガー博士
「物理と数学を巡る冒険」 エドワード・ウィッテン博士
「光、生命、色」 志村 ふくみ 氏

内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都新聞、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都、大学コンソーシアム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：2014 年 11 月 11 日（火）18:30

場 所：和輪庵

内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：2014 年 11 月 12 日（水）

場 所：国立京都国際会館、京都劇場

内 容：部門ごとに、受賞者の講演や演奏をはじめ、研究者や専門家を交えての研究発表やパネルディスカッション、パフォーマンスを行なった。

後 援：京都府、京都市、NHK

①先端技術部門「バイオマテリアル研究の最前線」

出席者数：120 名

協 賛：高分子学会、日本炎症・再生医学会、日本癌学会、日本口腔外科学会、日本再生医療学会、日本人工臓器学会、日本整形外科学会、日本創傷治癒学会、日本 DDS 学会、日本バイオマテリアル学会、日本分子生物学会、日本免疫学会、日本薬学会、日本薬剤学会、日本薬物動態学会、

日本臨床分子医学会

②基礎科学部門「超弦理論の拓く 21 世紀の数理科学」

出席者数：180 名

協 賛：日本数学会、日本物理学会

③思想・芸術部門「つむぎの思想 ―志村ふくみの世界―

出席者数：810 名

(7) 京都賞ウィーク中の関連行事

①小学生との交流

親子教室「草木染めから学ぶ―身体で感じる自然と色―」

日 時：2014 年 11 月 15 日（土）14:00

場 所：京都市立銅駝美術工芸高校

講 師：志村 ふくみ氏

出席者数：京都市内の親子 18 組 36 名

内 容：小学生とその保護者を対象に、志村氏の指導のもと、ビワの枝葉やクチナシの染料を用いてストール染めに挑戦した。自然の植物から抽出される染料の不思議さや、自然への想いや自然を敬う心の大切さを親子に伝えた。

②高校生との交流

高校フォーラム 「粒子、波、そして弦へ」

日 時：2014 年 11 月 13 日（木）14:30

場 所：京都大学 百周年時計台記念館

講 師：エドワード・ウィッテン博士

出席者数：京都府内 8 校の高校生 420 名

内 容：物質の性質や動きを説明しようとするニュートンなどの科学者の歴史を説明した上で、物質の最小単位が弦の性質を持つという超弦理論をバイオリンの弦に例えて分かりやすく説明し、超弦理論に対して確立された物理学の枠を超えたい、と語った。

③学生との交流

学生フォーラム 「大学の基礎研究からバイオベンチャーの創出には何が必要か―京都賞受賞者から学ぶ―」

日 時：2014 年 11 月 14 日（金）16:00

場 所：立命館大学 朱雀キャンパス

講 師：ロバート・サミュエル・ランガー博士

出席者数：大学生や研究者等 260 名

内 容：ランガー博士自身のベンチャー企業設立や研究が商品化に至る経緯について講演し、研究に大切なことはパッションだと伝えた。その後、製剤開発研究に

携わった教員と共に大学の研究を実社会に役に立てるための意見を交わした。

(8) 広報

①テレビによる報道

NHK ニュースでは授賞式の模様が関西で報道された。また NHK World の「NEWSLINE」では、志村ふくみ氏のインタビュー映像が放映された。
(NHK 及び民放各社の計 7 番組で授賞式及び関連行事の模様を放映)

②新聞・雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社の取材配信や海外マスコミによる取材があり、関連記事が国内で多数掲載され、海外でも WEB 版を中心に十数紙に掲載された。また京都新聞、読売新聞に京都賞受賞者の特集記事が掲載された。

(9) 京都賞街灯バナー及びデジタルサイネージの掲出

京都賞第 30 回を契機に 11 月 1 日～11 月 17 日までの期間、京都の幹線道路、烏丸通りの JR 京都駅から丸太町通りに至る 3.5km の区間と京都賞主会場となった国立京都国際会館の専用道路の街灯 174 本に、京都賞の開催を告げるバナーを掲出した。また、京都駅の地下鉄構内 24 面、国際会館地下通路 6 面にデジタルサイネージを掲出し、京都賞授賞式の開催や受賞者、京都賞メダル等を国内外の方々にアピールした。

(10) 鹿児島での関連行事

「京都賞受賞者鹿児島講演会」の開催

開 催 日：2014 年 11 月 17 日（月）

場 所：鹿児島市民文化ホール

主 催：京都賞受賞者講演会実行委員会

後 援：公益財団法人稲盛財団

出席者数：1,800 名

内 容：鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学および鹿児島商工会議所が主体となって組織された「京都賞受賞者講演会実行委員会」による講演会や歓迎レセプションの開催に協力した。また、講演会前日には鹿児島大学と共催し、城山観光ホテルにて歓迎夕食会を実施した。

(11) 米国での関連行事

「2015 年京都賞シンポジウム」の開催協力

開 催 日：2015 年 3 月 17 日（火）～19 日（木）

場 所：カリフォルニア州サンディエゴ市

主 催：京都賞シンポジウム組織

共 催：サンディエゴ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、
サンディエゴ大学、ポイント・ロマ・ナザレン大学、稲盛財団

出席者数：2,250 名

内 容：第 30 回京都賞受賞者による講演会及び慈善晩餐会の開催に協力した。

3. 第 31 回(2015)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2014 年 3 月 7 日開催の定時理事会において選任された第 31 回(2014)京都賞審査機関委員に対し、2014 年 11 月 11 日開催の第 31 回(2014)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

推薦依頼名簿に基づいて、国内、海外の有識者に対し、推薦依頼書を 2014 年 6 月下旬に発送した。

(3) 推薦の受付

2014 年 9 月 18 日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計 12 回、審査委員会を計 4 回開催した。

(審査委員会 2 回と京都賞委員会については 2015 年度に開催)

4. 第 32 回(2016)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2015 年 3 月 6 日開催の定時理事会において、第 32 回(2016)京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門 : 情報科学

Information Science

基礎科学部門 : 生命科学(分子生物学・細胞生物学・神経生物学)

Life Sciences (Molecular Biology, Cell Biology, Neurobiology)

思想・芸術部門 : 思想・倫理

Thought and Ethics

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2015 年 3 月 6 日開催の定時理事会において、第 32 回(2016)京都賞審査機関委員を選任した。

Ⅱ. 助成事業

1. 2014 年度研究助成に関する事項

(1) 2014 年度研究助成金贈呈式の開催

開 催 日：2014 年 4 月 13 日（土）14:30

場 所：グランドプリンスホテル京都

出席者数：140 名

内 容：2014 年 3 月 7 日の定時理事会において承認された 50 件に対し、総額 5,000 万円の贈呈を行なった。また贈呈式に引き続いて、第 18 回盛和スカラーズソサエティ総会が開催され、東京大学 総合研究博物館 館長 西野嘉章氏に「東京大学総合研究博物館の二十年『モバイルミュージアム』から『インターメディアテク』まで」というテーマでご講演いただいた。

※附属明細 1「2014 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

2. 2015 年度研究助成に関する事項

(1) 募集要項の発送

2014 年 5 月下旬に、全国国立大学法人、公立大学（選抜）、私立大学（選抜）、大学共同利用機関法人・その他研究機関（選抜）の合計 139 大学・機関宛に対して研究助成募集要項と申請書を発送し、募集した。

(2) 応募の締切

2014 年 7 月 25 日をもって申請書の受付を締め切り、437 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行なった。

(3) 研究助成選考委員会による選考

2014 年 12 月 6 日と 12 月 13 日に研究助成選考委員会を開催し、51 件 5,100 万円の助成対象者を選考した。

(4) 研究助成対象者の決定と発表

2015 年 3 月 6 日開催の定時理事会において、2015 年度研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行なった。

※附属明細 2「2015 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(5) 研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2015 年度研究助成選考委員を下記の通り公表した。
（役職は公表時現在）

榊 裕之（委員長） 豊田工業大学 学長

[自然科学系]

甘利 俊一	理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
巖佐 庸	九州大学 大学院理学研究院 教授
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
中西 重忠	公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長
成宮 周	京都大学 大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター センター長
本庶 佑	静岡県公立大学法人 理事長
村上 正紀	立命館大学 理事補佐
森 重文	京都大学 数理解析研究所 教授
横山 直樹	産業技術総合研究所 研究顧問

[人文・社会科学系]

佐和 隆光	滋賀大学 学長
田中 成明	京都大学 名誉教授
山室 信一	京都大学 人文科学研究所 所長
横山 俊夫	滋賀大学 理事・副学長
鷺田 清一	大谷大学 文学部 教授

3. 2016 年度研究助成に関する事項

（１）研究助成選考委員の決定

2015 年 3 月 6 日の定時理事会において、2016 年度研究助成選考委員を選任した。

4. 2014 年度特別助成に関する事項

（１）特別助成の決定

次の案件 3 件につき、特別助成審査委員会にて審議の上、2014 年 3 月 7 日及び 2015 年 3 月 6 日開催の定時理事会において決定した。この助成金は、2015 年 3 月 31 日までに対象者に交付された。

助成目的	申請者	助成金額(円)
第 17 回世界経済史会議への助成	東京大学 経済学部 教授 岡崎 哲二	500, 000
第 29 日本医学会総会 2015 関西への助成	第 29 回日本医学会総会 2015 関西 会頭 井村 裕夫	10, 000, 000
第 61 回パグウォッシュ会議世界大会 (パグウォッシュ 2015) への助成	独立行政法人 国際観光振興機構 理事長 松山 良一	1, 000, 000
合計 : 3 件		11, 500, 000

特別助成審査委員は、下記の通り。(役職は選任時現在)

榊 裕之 (委員長) 豊田工業大学 学長
 梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長
 鷺田 清一 大谷大学 文学部 教授

(2) 特別助成審査委員の決定

2015 年 3 月 6 日の定時理事会において、2015 年度特別助成審査委員を選任した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. イナモリフェローの活動

(1) 2013 年度イナモリフェロー

①後期研修への派遣

フェロー 6 名を、米国ワシントン D.C. の CSIS (戦略国際問題研究所) 内の教育研究機関「アブシャイア・イナモリ リーダーシップアカデミー(AILA)」の「AILA インターナショナル フェローシップ プログラム」後期研修に派遣した。

(2) 2014 年度イナモリフェロー

①フェローの決定

フェローの公募を行い、書類選考、面接審査を経て、下記の 3 氏に決定した。

(肩書は決定時現在)

宮崎 雄一郎 日本航空 元機長
 藤村 慎也 経営コンサルティング会社 藤村総合研究所 代表取締役
 伊奈 憲彦 京セラドキュメントソリューションズ 取締役

②前期研修への派遣

フェロー3名を、CSIS内の「アブシャイア・イナモリ リーダーシップアカデミー (AILA)」の「AILA インターナショナル フェローシップ プログラム」前期研修に派遣した。

2. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」に関する活動

2014年10月1日（水）、米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学で開催された、2014年稲盛倫理賞授賞式並びに関連行事の開催協力をはじめ、同センターの活動を支援した。

3. 国際相互理解の増進及び学術振興に寄与する活動

（1）米国京都賞受賞者シンポジウム共催大学への寄附

2011年4月に調印した「京都賞受賞者シンポジウム共催大学との特別寄附金合意書」に基づき、第4回20万ドル（4大学に対し各5万ドル）の寄附を実施した。（4年間で4大学へ総額80万ドルを寄附）

（2）大阪大学大学院寄附講座への寄附

大阪大学大学院国際公共政策研究科が2012年4月1日設置した寄附講座「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）」に対して、第3回3,100万円の寄附を実施した。（5年間で総額1億5,500万円を寄附予定）

（3）京都大学「京都大学－稲盛財団合同シンポジウム」への寄附

京都大学主催、稲盛財団共催で開催するシンポジウム「京都大学－稲盛財団合同シンポジウム」実施のため、当該年度分として4,800万円（2013年度分1,800万円を含む）の寄附を行った。（4年間で総額1億2,000万円を寄附予定）

尚、第1回目のシンポジウムは、2014年7月12日、13日の2日間にわたり、京都大学百周年時計台記念館他にて開催された。

（4）稲盛財団設立30周年を記念する講演会の開催

2014年9月29日（月）に稲盛財団設立30周年を記念し、京都ホテルオークラにて、元米国副大統領・ノーベル平和賞受賞者のアル・ゴア氏による講演会「稲盛財団設立30周年記念講演会『青い地球は誰のもの－地球環境と人類の持続可能性－』」を開催し、約1,100人が参加した。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認された。

(1) 理事会

日 時 2014 年 5 月 30 日 (金)

議 案 ・ 2013 年度(平成 25 年度)事業報告及び決算報告の件

日 時 2014 年 6 月 20 日 (金)

議 案 ・ 第 30 回(2014)京都賞受賞者承認の件

・ 京セラ株式会社第 60 期定時株主総会議決権行使の件

報告事項 ・ サンディエゴでの第 13 回(2014)京都賞シンポジウムの件

・ ケースウエスタンリザーブ大学「第 7 回(2014)稲盛倫理賞」受賞者決定の件

・ 主要日程の件

日 時 2014 年 8 月 18 日 (月)

議 案 ・ 事務局長任命の件

日 時 2015 年 3 月 6 日 (金)

議 案 ・ 2015 年度(平成 27 年度)事業計画及び収支予算の件

・ 京都賞受賞者シンポジウムの開催支援並びに共催大学への寄附継続の件

・ 京都大学「京都こころ会議」への支援の件

・ 第 31 回(2015)京都賞審査に係わる委員変更の件

・ 第 32 回(2016)京都賞授賞対象分野の件

・ 第 32 回(2016)京都賞審査に係わる委員選任の件

・ 2015 年度研究助成対象者並びに助成金額承認の件

・ 2016 年度研究助成選考に係わる委員選任の件

・ 2014 年度特別助成対象者並びに助成金額承認の件

・ 2015 年度特別助成審査に係わる委員選任の件

・ 東京事務所閉鎖の件

・ 定時評議員会開催の件(2015 年 6 月)

報告事項 ・ 理事長・専務理事の業務執行報告の件

・ 特別顧問就任の件

・ 第 31 回(2015)京都賞推薦状況報告の件

・ ケースウエスタンリザーブ大学「第 7 回(2014)稲盛倫理賞」授賞式
開催報告及び新大学センターの開所の件

・ 主要日程の件

(2) 評議員会

日 時 2014 年 6 月 20 日 (金)

議 案 ・ 2013 年度(平成 25 年度)事業報告及び決算報告の件

報告事項 ・ サンディエゴでの第 13 回(2014)京都賞シンポジウムの件

・ ケースウエスタンリザーブ大学「第 7 回(2014)稲盛倫理賞」受賞者決定の件

・ 主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第 30 回(2013)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
2014. 4. 5	京都賞基礎科学部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2014. 4. 6	京都賞思想・芸術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2014. 4. 19	京都賞委員会	各部門受賞者審査

(2) 第 31 回(2015)京都賞及び 2015 年度助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2014. 11. 11	京都賞審査機関合同委員会	審査基本方針決定
2014. 12. 6	研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2014. 12. 13	研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2015. 1. 10	京都賞先端技術部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
2015. 1. 11	京都賞基礎科学部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
2015. 1. 24	京都賞思想・芸術部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
2015. 1. 25	京都賞先端技術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
2015. 1. 31	京都賞基礎科学部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 7	京都賞思想・芸術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 8	京都賞先端技術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 14	京都賞基礎科学部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 21	京都賞思想・芸術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 22	京都賞先端技術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2015. 2. 28	京都賞基礎科学部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2015. 3. 7	京都賞思想・芸術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
2015. 3. 14	京都賞先端技術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2015. 3. 21	京都賞思想・芸術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2015. 3. 22	京都賞基礎科学部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
2015. 3. 28	京都賞先端技術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査

※以下は 2015 年度に実施

2015. 4. 4	京都賞基礎科学部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2015. 4. 5	京都賞思想・芸術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2015. 4. 18	京都賞委員会	各部門受賞者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	場所
2014. 4. 19	2014 年度助成金贈呈式及び第 18 回盛和スカラズソサエティ総会取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2014. 6. 11	第 30 回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ
2014. 6. 20	第 30 回京都賞受賞者発表：記者会見	京都大学 稲盛財団記念館
2014. 9. 26	第 30 回京都賞ウィーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ
2014. 10. 6	第 30 回京都賞青少年育成プログラムについて	関係記者クラブ
2014. 10. 6	京都賞受賞者 鹿児島講演会開催について	関係記者クラブ
2014. 10. 30	「烏丸通」等の街灯への京都賞のバナー掲出について	関係記者クラブ
2014. 11. 5	第 30 回京都賞ウィーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2014. 11. 10	第 30 回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2015. 3. 6	2015 年度研究助成対象者発表：資料配布	関係記者クラブ
2015. 3. 13	2015 年京都賞シンポジウム開催概要：資料配布	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

下記の刊行物を発行し、関係先に配布した。

発行日	内容	発行部数
2014. 5	稲盛財団ニュース 83 号	3, 000 部
2014. 7	稲盛財団ニュース 84 号	3, 500 部
2014. 8	盛和スカラズソサエティ会報 18 号	1, 600 部
2014. 9	The Inamori Foundation Newsletter 33 号	2, 500 部
2015. 1	稲盛財団ニュース 85 号	5, 000 部
2015. 2	The Inamori Foundation Newsletter 34 号	3, 000 部

(3) 電子メールニュースの配信

国内外のメールニュース登録者約 5, 000 名(2015 年 3 月時点)に対し、電子メールニュースを計 10 回配信した。

(4) ウェブサイトの運営

「稲盛財団ホームページ (www.inamori-f.or.jp)」や「京都賞行事紹介サイト (www.kyotoprize.org)」などのコンテンツの追加を行った。

4. 理事、監事、評議員等の選任及び異動

(1) 事務局長の任命

2014 年 8 月 18 日開催の理事会において、下記の通り事務局長の任命を行った。

事務局長 檜物 省一

(2) 理事の辞任

下記の通り、理事 1 名より辞任の申し出があり、受領した。これにより理事は 18 名となった。(役職は辞任時現在)

忽那 武範 稲盛財団 顧問 (2015 年 3 月 31 日付にて辞任)

(3) 評議員の辞任

下記の通り、評議員 1 名より辞任の申し出があり、受領した。これにより評議員は 21 名となった。(役職は辞任時現在)

川村 誠 京セラ株式会社 元会長 (2014 年 12 月 5 日付にて辞任)

2014年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研 究 題 目
自然科学系	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 准教授 アイザワ ヒデノリ 相澤 秀紀	うつ病に特徴的なレム睡眠障害における グルタミン酸輸送体の役割
	九州大学 大学院理学研究院 准教授 イケノウチ ジュンイチ 池ノ内 順一	浸潤癌の表面マーカーとしての細胞膜脂質の 解析技術の確立
	名古屋工業大学 若手研究イノベータ養成センター テニユアトラック助教 イシイ ダイスケ 石井 大佑	微小動物の自発水輸送可能な微小流路を模倣した 水-油分離システムの開発
	九州大学 大学院芸術工学研究院 助教 イトウ ヒロシ 伊藤 浩史	共鳴現象を利用した概日リズム制御法の開発
	東京大学 大学院数理科学研究科 准教授 イマイ ナオキ 今井 直毅	局所Langlands対応の幾何学的研究
	九州大学 大学院理学研究院 准教授 イワミ シンゴ 岩見 真吾	数理生物学的手法を用いた 最適な抗ウイルス投与戦略のデザイン
	東京大学 先端科学技術研究センター 准教授 ウサミ コウジ 宇佐見 康二	強磁性体マグノンのレーザー冷却
	首都大学東京 大学院理工学研究科 准教授 エゾエ ユウイチロウ 江副 祐一郎	衛星と医療応用を目指す、マイクロマシン技術を用いた革新的な超軽量X線光学系の高分解能化
	東京工業大学 大学院理工学研究科 助教 オオシマ タカヨシ 大島 孝仁	次世代半導体酸化ガリウムにおける キャリア生成機構の解明
	名古屋大学 大学院理学研究科 助教 オクムラ フミヒコ 奥村 文彦	ユビキチン様分子ISG15修飾による自然免疫制御
	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 特任助教 オダ コウスケ 小田 康祐	センダイウイルスCタンパク質がもつ 自然免疫回避機構の構造生物学的解明
	慶應義塾大学 医学部 助教 カンダ ヒロシ 菅田 浩司	血液脳関門の強度を規定する分子機構の解明
	神戸大学 大学院工学研究科 助教 キクチ ショウイチ 菊池 将一	チタン製バイオインプラントの高機能化を目的とした 微粒子衝突プロセスによる界面レス骨誘導層の創製
	横浜市立大学 大学院生命ナノシステム科学研究科 准教授 コジマ ノブヒコ 小島 伸彦	膵島様組織の再構築に関わる新たな糖鎖の役割

	対象者	研 究 題 目
自然科学系	早稲田大学 理工学術院 研究院准教授 コバヤシ ヨウ 小林 洋	医師の脳活動に基づいた直感的に操作可能な 手術支援ロボットの開発
	香川大学 教育学部 准教授 コモリ ヒロフミ 小森 博文	アレルギー反応介在物質ヒスタミンの合成機構の解明
	大阪大学 蛋白質研究所 助教 サヌキ リカコ 佐貫 理佳子	マイクロRNA欠失によるてんかん発症メカニズムの 解析
	東北大学 大学院医学系研究科 講師 スズキ ノリオ 鈴木 教郎	赤血球増殖因子エリスロポエチンによる 骨髄造血環境リモデリング機構
	大阪大学 大学院理学研究科 助教 タカシマ ヨシノリ 高島 義徳	超分子錯体形成を利用した革新的接着材料の創製
	広島大学 大学院総合科学研究科 特任助教 タカハラ テルヒコ 高原 輝彦	福島県近郊の流域に分布する魚類の放射性セシウムの 蓄積にダムが及ぼす影響
	上智大学 理工学部 准教授 タケオカ ユウコ 竹岡 裕子	生体分子認識機能の向上を目指した π 共役系高分子の 開発
	大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 講師 タニ シュウジ 谷 修治	植物病原卵菌 <i>Phytophthora infestans</i> の 付着器形成阻害物質の同定と作用機序解析
	熊本大学 大学院生命科学研究部 講師 ツチャ ソウケン 土屋 創健	小胞輸送システムを介した食道癌の 自己増殖亢進機構の解明
	大阪大学 産業科学研究所 准教授 ツツイ マクス 筒井 真楠	面内型ナノポアセンサーを用いた 1分子DNAシーケンシング法の開発
	群馬大学 理工学研究院 助教 テラワキ シンイチ 寺脇 慎一	癌細胞の浸潤促進因子Tiam1のPar複合体を介した 活性化機構の解明
	山形大学 理学部 准教授 トミマツ ヒロシ 富松 裕	分布限界における植物個体群のダイナミクス
	名古屋大学 大学院工学研究科 助教 ナカタニ ハジメ 中谷 肇	グラム陰性菌由来の毛状タンパク質による 微生物の固定化と表層提示技術の統合
	千葉大学 大学院融合科学研究科 助教 ナカムラ カズキ 中村 一希	可逆的に発光の書き換えが可能な 不可視性感熱記録材料の開発

	対象者	研究題目
自然科学系	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 助教 ティモシー マサミ ロナルド バーンズ Timothy Masami Ronald Byrnes	冷却原子集団を用いた量子情報処理
	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 准教授 ヒラタ ヒロミ 平田 普三	運動システムの分子生理遺伝学的解析
	京都大学 白眉センター 特定助教 マエダ ユウスケ 前多 裕介	リガンド濃度勾配の光制御技術を用いた細胞の非対称性の制御と理解
	筑波大学 医学医療系 准教授 マツザカ タカシ 松坂 賢	脂肪酸伸長酵素Elovl6によるNLRP3インフラマソーム制御機構の解明および生活習慣病治療への応用
	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任助教 マツモト マサノリ 松本 真典	多発性硬化症を抑制する制御性B細胞の同定とその抑制メカニズムの解明
	筑波大学 医学医療系 教授 マツモト マサユキ 松本 正幸 (2014年度伯楽制度対象者)	前頭前野機能への局在性ドーパミン入力への役割
	高知大学 教育研究部 特任助教 ミウラ オサム 三浦 収 (2013年度伯楽制度対象者)	干潟生物の攪乱と回復過程ー東日本大震災前後のウミニナ類の生態的・遺伝的変遷
	東北大学 金属材料研究所 准教授 ミズグチ マサキ 水口 将輝	高速粒子線照射法による希土類・貴金属元素フリー新規磁石材料の創製
	東北大学 加齢医学研究所 助教 モチヅキ ケンタロウ 望月 研太郎	マウス始原生殖細胞の遺伝子発現と分化運命決定を制御するヒストン修飾調節因子の探索と解析
	北海道大学 遺伝子病制御研究所 助教 モリオカ ユカ 森岡 裕香	独自のモデルマウスを利用した分娩異常メカニズムの解明と診断・治療法開発への応用
	関西大学 システム理工学部 准教授 ヤマザキ カズトシ 山崎 和俊	投薬スケジューリング問題のレヴィー過程モデル
	九州大学 大学院歯学研究院 助教 ヨシザキ ケイゴ 吉崎 恵悟	エナメル質形成不全マウスを用いたエナメル質石灰化機構および歯原性上皮細胞の分化制御の解明
	小計 40件	

	対象者	研 究 題 目
人 文 ・ 社 会 科 学 系	九州大学 大学院芸術工学研究院 助教 アソウ ツカサ 麻生 典	特許権の共有制度のあり方—フランス法からの示唆—
	東京学芸大学 人文社会科学系 准教授 イトウ ユキコ 伊藤 由希子	急性期入院サービス提供の立地と医療の効率性 —医療の「適正配分」のための手法の開発—
	神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 准教授 オオタ ミサコ 大田 美佐子	大戦間期亡命音楽家の文化的コミュニティ形成過程の 基礎的研究
	岡山大学 大学院社会文化科学研究科 准教授 オオヌキ トシオ 大貫 俊夫	中世改革修道院の教区教会への関与と 社会形成に関する比較研究
	大阪産業大学 経済学部 教授 カトウ ミチヤ 加藤 道也	戦前期失業政策構想の形成と展開における官僚の役割
	和歌山大学 経済学部 准教授 サンコウジ ユミコ 三光寺 由実子	東寺百合文書 光明講方算用状の会計史研究 —東寺の寺内金融システムと会計的思考の解明—
	兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 教授 トリゴエ タカシ 鳥越 隆士	学校教育における「手話」教科の可能性： カリキュラム創生のための基礎研究
	中央大学 法学部 教授 ナカザワ ヒデオ 中澤 秀雄	労働政治の「他でもありえた歴史的経路」： 日本炭鉱労働運動の源流・終焉の再検討
	明治大学 農学部 専任講師 ナカジマ シンサク 中嶋 晋作	農業基盤整備事業の政策評価と制度デザイン
	京都大学 白眉センター 特定助教 フジイ タカシ 藤井 崇	死を歌う： 古代ギリシア・ローマ期小アジア西部出土の ギリシア語韻文墓碑銘における死・感情・感情戦略
	小計 10件	
		合計 50件

※所属・役職は、2014 年 4 月 1 日現在

2015年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研 究 題 目
自然科学系	和歌山大学 システム工学部 助教 アトラシ ヒロノリ 新 史紀	糖鎖が形成する多点相互作用を利用した 新規接着機構の開発
	自然科学研究機構 国立天文台 准教授 イオノ ダイスケ 伊王野 大介	ALMA望遠鏡を用いた遠方サブミリ波銀河の 高分解能観測
	岡山大学 大学院自然科学研究科 助教 インカワ アツシ 石川 篤	音響メタマテリアルを用いた開口部遮音材料の開発
	大阪大学 大学院工学研究科 講師 インモト タクヤ 石本 卓也	三次元積層造形技術を基軸とする、骨力学機能を 模倣した骨インプラント材料開発
	名古屋大学 大学院理学研究科 特任助教 インモト ヒロシ 石元 広志	性的モチベーションを高める求愛歌の脳内統合処理機構： 高次脳神経回路の同定と動作機序の解明
	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 准教授 イノウエ ヤスミチ 井上 靖道	メチルトランスフェラーゼSET8による TGF- β シグナル制御を介した がん悪性化メカニズムの解明
	九州大学 大学院医学研究院 助教 イワモリ トクコ 岩森 督子	体外培養系による精子形成を目指した 生殖細胞間架橋関連因子の同定 および細胞連結増殖の機能解析
	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 ウブカタ タカシ 生方 俊	導電性高分子材料の動的光パターンニング法の開発
	東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 助教 オカダ ヨシノリ 岡田 佳憲	結晶対称性の破れによるトポロジカル結晶絶縁体の Diracギャップ形成メカニズムの解明
	大阪大学 大学院理学研究科 助教 オヌマ タケン 小沼 健	脊索動物胚の左右割球および表皮細胞の動きから 器官形成の全容を見る
	京都大学 数理解析研究所 助教 カワノウエ ヒラク 川ノ上 帆	代数多様体の特異点解消
	理化学研究所 環境資源科学研究センター 基礎科学特別研究員 キタガワ ムネノリ 北川 宗典	原形質連絡を介した細胞間情報伝達の 制御メカニズムの解明
	京都大学 大学院工学研究科 准教授 クラハシ タクヤ 倉橋 拓也	複素環高分子半導体材料の開発に基づく 高効率有機薄膜太陽電池の構築
	東北大学 金属材料研究所 助教 クロサワ シュンスケ 黒澤 俊介	資源探査、医療、宇宙観測にむけた 高機能放射線検出素子の開発

	対象者	研 究 題 目
自然科学系	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 ケブカワ ヨウコ 癸生川 陽子	隕石有機物を用いた小惑星の熱履歴の研究
	自然科学研究機構 国立天文台 助教 コウノ ユウスケ 河野 裕介	ブラックホール直接撮像のための 気球VLBI搭載気密計算機の開発
	東北大学 大学院工学研究科 助教 サイトウ キョウスケ 齊藤 恭介	GaSe単分子層ナノ薄膜における巨大非線形光学効果と テラヘルツ電磁波発生への適用
	名古屋大学 大学院情報科学研究科 助教 ササハラ カズトシ 笹原 和俊	生物の行動系列データのモデリング手法の研究
	東京大学 大学院理学系研究科 講師 ツイヒジ タカノブ 對比地 孝亘	恐竜類における頸部可動範囲の機能形態学的解析
	九州大学 稲盛フロンティア研究センター 教授 ツカダ ユウイチ 束田 裕一	哺乳類着床前初期胚における 細胞外分泌タンパク質の役割
	筑波大学 数理物質系 准教授 ツジムラ セイヤ 辻村 清也	ソフト界面と階層空間が制御された炭素材料での 酵素の超活性
	東京理科大学 理学部第二部 講師 ナカ ユミコ 中 裕美子	スルホニル基含有星型高分子を用いた 規則的ポーラス構造形成
	東京工業大学 大学院生命理工学研究科 准教授 ニカイドウ マサト 二階堂 雅人	収斂進化の遺伝的基盤とそのプロセスの解明
	大分大学 医学部 助教 ハンモト サトル 橋本 悟	早老症におけるゲノム不安定性と 転写調節異常の解明
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 フクダ ヒロカズ 福田 弘和	体内時計のトポロジカルチャージによる 植物の脱分化現象の解明
	東北大学 大学院工学研究科 助教 フジモト ユタカ 藤本 裕	環境放射線の線量計測が可能な 珪酸塩系ガラスの創生
	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任助教 アリソン ジェーン ホーブロ Alison Jane Hobro	無標識ラマン分光法による インターロイキン-6 mRNA制御領域の構造解析
	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 マツシマ ヒサヨシ 松島 永佳	微小重力環境を利用した電極材料創製による 水素同位体分離電解法への展開

	対象者	研 究 題 目
自然科学系	京都大学 霊長類研究所 特定助教 マツダ イツキ 松田 一希	性的二型の進化要因の解明： テングザルの鼻はなぜ長いのか？
	静岡大学 学術院工学領域 助教 マツダ ヤスヒロ 松田 靖弘	高い生体、環境親和性を持つ高分子の簡便な ゲル形成手法の確立と材料展開
	名古屋大学 エコトピア科学研究所 准教授 マツダ ユウ 松田 佑	ハイドロゲル球体の衝突により粉粒体層上に 形成されるクレーター形状に関する研究
	物質・材料研究機構 環境・エネルギー材料部門 研究員 マツナガ テツヤ 松永 哲也	粒界組織制御による高クロムフェライト系耐熱鋼の 溶接組織安定化
	筑波大学 医学医療系 教授 マツモト マサユキ 松本 正幸（2014年度伯楽制度対象者）	前頭前野機能への局在性ドーパミン入力への役割
	静岡大学 学術院理学領域 助教 ミツイ ユウタ 三井 雄太	スロースリップイベントの繰り返し間隔変化から探る 地震の準備過程
	大阪大学 大学院工学研究科 助教 ムタ ヒロアキ 牟田 浩明	変調ドーピングによる高移動度熱電材料の性能向上
	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系 准教授 モリ ヒロトシ 森 寛敏	劣化耐性をもつ白色有機EL材料開発のための 励起状態分子間相互作用の理論的制御指針の探索
	愛媛大学 農学部 准教授 ヤエノ タカシ 八丈野 孝	植物の免疫システムを破綻させる 病原糸状菌エフェクターの同定とその分子機構の解明
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 ヤジマ タケアキ 矢嶋 赳彬	セラミックス強誘電体薄膜の転写技術の確立と 超高压用圧力分布型センサシートへの応用
	北海道大学 大学院理学院 准教授 ヤスダ サトシ 保田 諭	高活性触媒能をもつ二次元ヘテロ材料の ボトムアップ合成
	東京農工大学 大学院工学研究院 特任准教授 ヤナギサワ ミホ 柳澤 実穂	微小空間での密度揺らぎと濡れの物理的解明による ミクロゲルの形状制御法の確立
	浜松医科大学 医学部 助教 ワタナベ ミホ 渡部 美穂	細胞内クロライド恒常性維持機構の破綻による 精神疾患病態の解明
		小計 41件

	対象者	研 究 題 目
人文・社会科学系	大阪大学 大学院文学研究科 教授 イトウ ノブヒロ 伊東 信宏	バルカンとアジアにおける「演歌型」大衆音楽の 国際比較
	九州大学 大学院法学研究院 教授 イノウエ タカヒロ 井上 宜裕	年齢が刑事責任に及ぼす影響 ー少年犯罪及び高齢者犯罪の合理的解決に向けてー
	金沢大学 人間社会研究域 准教授 オオノ トモヒコ 大野 智彦	ダム建設をめぐる「専門性」と「民主制」： 大規模ダムと田んぼダムの比較
	東京大学 総合研究博物館 特任助教 キクチ トシマサ 菊池 敏正	ミュージアムにおけるレプリカを用いた 包括的な学術標本の活用について
	九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授 キシ ヤスコ 岸 泰子	近世公家社会における婚礼の都市史的研究
	新潟大学 研究推進機構 准教授 サコン ユキムラ 左近 幸村	20世紀初頭の環日本海と環黒海の比較研究： ロシア帝国論の視点から
	奈良教育大学 教育学部 准教授 タケウチ シンペイ 竹内 晋平	京都府画学校関係者による図画教科書（毛筆）の アーカイビングに関する基礎的研究
	京都大学 経済研究所 教授 ナカジマ トモユキ 中嶋 智之	財政危機に関するマクロ経済分析
	徳島大学 埋蔵文化財調査室 准教授 ハシノ シンペイ 端野 晋平	朝鮮無文土器人は環境に対していかにして適応したのか？ ー集落分析による水稻農耕伝播メカニズムの解明ー
	東京大学 社会科学研究所 准教授 ホシロ ヒロユキ 保城 広至	政府開発援助（ODA）は被援助国との政治経済関係に どのような影響を与えるのか ーパネル・データによる実証分析ー
		小計 10件
		合計 51件

※所属・役職は、2015年4月1日現在